



## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年8月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社西武ホールディングス

コード番号 9024 URL <http://www.seibuholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 高志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報部長 (氏名) 西山 隆一郎 TEL 04-2926-2645

四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	115,855	4.9	12,562	10.0	10,622	9.8	6,473	20.4
26年3月期第1四半期	110,448	△4.0	11,422	0.2	9,677	9.4	5,377	16.6

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 7,574百万円 (△22.4%) 26年3月期第1四半期 9,759百万円 (51.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	19.00	—
26年3月期第1四半期	15.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	1,411,767	271,433	19.1
26年3月期	1,420,449	267,689	18.7

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 269,748百万円 26年3月期 265,995百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	4.00	—	4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	237,095	2.2	26,597	0.8	21,915	0.2	14,820	10.8	43.33
通期	488,199	3.1	48,389	3.6	39,436	3.5	27,340	49.3	79.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 一）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期1Q	342,124,820株	26年3月期	342,124,820株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	1,685,476株	26年3月期	67,458株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期1Q	340,709,552株	26年3月期1Q	342,057,607株

(注) 従業員持株会信託口が保有する当社株式を、期末自己株式数に含めております（27年3月期1Q 1,617,800株）。また、従業員持株会信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数（四半期累計）の計算において控除する自己株式に含めております（27年3月期1Q 1,347,651株）。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び不確実な要因に係る仮定を前提として作成しており、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

業績予想（平成27年3月期の連結業績予想）に関する事項については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	6
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11
4. 補足情報 .....	12
(1) 鉄道事業運輸成績 .....	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな景気回復基調が続いているものの、消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動により、消費マインドに弱い動きが見られます。先行きについては、その影響が薄れることや各種経済政策の効果発現など期待感があるものの、海外景気の下振れリスクや原油の高騰などの要因もあり不透明感が残る状況であります。

このような状況のなか、当社グループは、企業価値の極大化に向け、「西武グループ長期戦略」に基づき、当社グループが保有する経営資源の有効活用をおこないながら、様々な事業・サービスを組み合わせ提供できる領域・付加価値を拡大し、あらゆる場面でお客さまの生活を応援していく企業グループとなることを目指しております。

当第1四半期連結累計期間においては、各事業における具体的目標達成に向けて「新たな視点でスピード感をもって、イノベーションに挑戦」をキーワードに「既存事業の強化」と「長期的な事業基盤の確立」に取り組んでまいりました。

グループの一大プロジェクトであるグランドプリンスホテル赤坂跡地の開発計画「紀尾井町プロジェクト」を引き続き推進したほか、お客さまの生活を応援するための取り組みとして、「西武グループこども応援プロジェクト」や「シニアほほえみプロジェクト」を引き続き推進いたしました。

当第1四半期連結累計期間における経営成績の概況は、営業収益は、1,158億55百万円と前年同期に比べ54億6百万円の増加（前年同期比4.9%増）となり、営業利益は、125億62百万円と前年同期に比べ11億40百万円の増加（同10.0%増）となり、償却前営業利益は、222億4百万円と前年同期に比べ11億74百万円の増加（同5.6%増）となりました。経常利益は、106億22百万円と前年同期に比べ9億44百万円の増加（同9.8%増）となりました。四半期純利益は、64億73百万円と前年同期に比べ10億95百万円の増加（同20.4%増）となりました。

各セグメントにおける業績は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメントの名称	営業収益			営業利益			償却前営業利益		
	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比 増減	前年同期比 増減率 (%)
都市交通・沿線事業	38,248	△716	△1.8	6,636	28	0.4	11,759	△31	△0.3
ホテル・レジャー事業	40,938	1,337	3.4	939	781	496.1	3,639	817	29.0
不動産事業	11,725	387	3.4	3,775	134	3.7	4,692	181	4.0
建設事業	23,350	8,668	59.0	630	843	—	694	842	—
ハワイ事業	3,659	451	14.1	△82	△82	—	333	△16	△4.6
その他	10,530	△291	△2.7	848	△197	△18.9	1,424	△200	△12.3
合計	128,452	9,837	8.3	12,748	1,509	13.4	22,542	1,593	7.6
調整額	△12,597	△4,431	—	△185	△369	—	△337	△418	—
連結数値	115,855	5,406	4.9	12,562	1,140	10.0	22,204	1,174	5.6

(注) 1 調整額については、主に連結会社間取引消去等であります。

2 償却前営業利益は、営業利益に減価償却費を加えて算定しております。

(都市交通・沿線事業)

都市交通・沿線事業の内訳は鉄道業、バス業、沿線レジャー業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成26年3月期 第1四半期 連結累計期間	平成27年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	38,964	38,248	△716
鉄道業	25,600	25,082	△517
バス業	6,269	6,279	10
沿線レジャー業	5,378	5,216	△161
その他	1,717	1,669	△47

鉄道業では、雇用情勢の回復などを背景に定期旅客輸送人員は堅調に推移するも、消費税増税前の回数券を中心とした需要の増加に対する反動減などにより、旅客輸送人員は前年同期比0.6%減(うち定期0.5%増、定期外2.5%減)、旅客運輸収入は前年同期比1.2%減(うち定期0.0%減、定期外2.2%減)となりました。このような状況のなか、安全の確保を最重要課題としてとらえハード・ソフト両面にわたる取り組みを実施したほか、お客さまの利便性の向上にも努めてまいりました。安全への取り組みとしては、A T S(自動列車停止装置)の機能向上や池袋線石神井公園駅付近高架複々線化工事、新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業の工事を進めております。利便性向上への取り組みとしては、西武鉄道最大のターミナルである池袋駅において、快適なサービスを提供するため、リニューアル工事に着手いたしました。そのほか、沿線観光地である秩父の魅力を発信すべく、「秩父さんぽ旅」をテーマにテレビCM「2014年春夏編」の放映を開始いたしました。また、川越においては、訪れるお客さまに便利でわかりやすくご利用いただくために、「川越アクセスきっぷ」を発売いたしました。

バス業では、路線バスが好調に推移いたしました。このような状況のなか、お客さまにご利用いただきやすいダイヤを編成するなど、さらなる利便性向上に努めてまいりました。

沿線レジャー業では、としまえんにおいて、「サクラナイト」として夜桜とイルミネーションを一緒にお楽しみいただくイベントを開催するなど、積極的な営業施策を展開し、旅客誘致に努めてまいりました。

しかしながら、都市交通・沿線事業の営業収益は、382億48百万円と前年同期に比べ7億16百万円の減少(同1.8%減)となりました。営業利益は、引き続き業務効率化やコスト削減を進めたことなどもあり66億36百万円と前年同期に比べ28百万円の増加(同0.4%増)となり、償却前営業利益は、117億59百万円と前年同期に比べ31百万円の減少(同0.3%減)となりました。

(ホテル・レジャー事業)

ホテル・レジャー事業の内訳はホテル業(シティ)、ホテル業(リゾート)、ゴルフ場業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成26年3月期 第1四半期 連結累計期間	平成27年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	39,601	40,938	1,337
ホテル業(シティ)	24,020	25,120	1,100
ホテル業(リゾート)	6,962	6,810	△151
ゴルフ場業	3,254	3,249	△3
その他	5,365	5,757	392

(注) 1 ホテル業(シティ)には主に大都市圏の中心商業地域やターミナル及びその周辺地域に立地するホテルを含んでおります。ホテル業(リゾート)には主に観光地や避暑地に立地するホテルを含んでおります。

2 以降の項目において、ホテル業(シティ)に属するホテルを「シティ」、ホテル業(リゾート)に属するホテルを「リゾート」と称する場合があります。

ホテル業全体では、景況感の好転を踏まえ、レベニューマネジメント(注1)を継続して実施し、平均販売室料を重視した施策を推進したことなどにより、RevPAR(注2)が前年同期比で上昇いたしました。

- (注) 1 レベニューマネジメントとは、需要予測に基づき、適切な時期に適切な価格にてお客さまにサービスを提供し、利益を最大化する手法であります。
- 2 RevPARとは、Revenue Per Available Roomの略であり、宿泊に係る収入を客室総数で除したものであります。

ホテル業(シティ)では、さらにインバウンドを誘客すべく、引き続き現地商談会を実施するとともに、個人旅行者の獲得強化に努めたことなどにより、客室稼働率、平均販売室料ともに好調に推移いたしました。また、宴会については、MICE(注)において、引き続き営業強化に努めたことにより、特に都内主要4ホテルが好調に推移いたしました。

(注) MICEとは、企業などの会議(Meeting)、企業などがおこなう報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などがおこなう国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称であります。

ホテル業(リゾート)では、軽井沢、箱根エリアにおいては好調に推移したものの、その他のエリアにおける客室稼働率が低迷し、RevPARが前年同期比で低下いたしました。このような状況のなか、軽井沢エリアにおいて、長期滞在利用も想定した別荘型宿泊施設「ヴィラ」20棟、サービス提供施設「センターハウス」1棟で構成される「ザ・プリンス ヴィラ軽井沢」を平成26年7月8日にオープンいたしました。今後増加が見込まれる需要を取り込み、さらなる収益拡大をはかってまいります。

ゴルフ場業では、プレー人口が継続して減少する一方で、景況感の回復などから法人需要の増加が見込まれております。このような状況のなか、前連結会計年度にクラブハウスを建て替えた瀬田ゴルフコースでは、単価向上施策が奏功し好調に推移いたしました。さらに、軽井沢72ゴルフの東コースにおいて、6スパンに分割可能で、最大200名規模まで利用可能なコンペルームを兼ね備えた新たなクラブハウスを平成26年7月2日にオープンいたしました。

これらの結果、ホテル・レジャー事業の営業収益は、409億38百万円と前年同期に比べ13億37百万円の増加(同3.4%増)となり、営業利益は、9億39百万円と前年同期に比べ7億81百万円の増加(同496.1%増)となり、償却前営業利益は、36億39百万円と前年同期に比べ8億17百万円の増加(同29.0%増)となりました。

(不動産事業)

不動産事業の内訳は不動産賃貸業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成26年3月期 第1四半期 連結累計期間	平成27年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	11,338	11,725	387
不動産賃貸業	6,951	7,050	99
その他	4,387	4,675	288

不動産賃貸業では、景況感の回復を背景として、オフィス・住宅の空室率は改善いたしました。このような状況のなか、「西武グループアセット戦略」に基づき、低未利用地の有効活用を推進してまいりました。その一つとして、池袋線富士見台～練馬高野台駅間の高架下スペースを活用し、調剤薬局と4つの診療科目からなるクリニックモールを誘致し、順次開業しております。そのほか、池袋駅の店舗リニューアル工事や賃貸住宅「エミリブ南池袋」及び「(仮称)エミリブ練馬豊玉」の建設工事を進めております。軽井沢・プリンスショッピングプラザでは、アウトレット業態初出店の6店舗を含む54店舗分の増床をおこない、平成26年7月2日にスケールアップオープンいたしました。今後も幅広い層のお客さまにご満足いただけるリゾート型ショッピングモールを目指してまいります。

そのほか、「紀尾井町プロジェクト」を引き続き推進しており、オフィス部分においてメインテナントの入居が決定いたしました。また、軽井沢エリアの顧客サービスの向上や営業力の強化を目的として軽井沢・プリンスショッピングプラザ内に「軽井沢駅前別荘販売センター」を新設し、平成26年7月2日に営業を開始いたしました。

これらの結果、不動産事業の営業収益は、117億25百万円と前年同期に比べ3億87百万円の増加(同3.4%増)となり、営業利益は、37億75百万円と前年同期に比べ1億34百万円の増加(同3.7%増)となり、償却前営業利益は、46億92百万円と前年同期に比べ1億81百万円の増加(同4.0%増)となりました。

(建設事業)

建設事業の内訳は建設業、その他であり、それぞれの営業収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成26年3月期 第1四半期 連結累計期間	平成27年3月期 第1四半期 連結累計期間	増減額
営業収益	14,681	23,350	8,668
建設業	9,686	17,723	8,037
その他	4,995	5,626	631

建設業では、鉄道工事や分譲住宅の建設、公共工事の施工、除染関連工事を進めたほか、厳正な受注管理や継続的な与信管理に加え、原価管理についても強化に努めてまいりました。また、大型土木工事や東北地区での震災復興関連工事を受注するなど受注状況は好調に推移しております。

これらの結果、建設事業の営業収益は、233億50百万円と前年同期に比べ86億68百万円の増加(同59.0%増)となり、営業利益は、6億30百万円と前年同期に比べ8億43百万円の改善(前年同期は、営業損失2億13百万円)となり、償却前営業利益は、6億94百万円と前年同期に比べ8億42百万円の改善(前年同期は、償却前営業損失1億48百万円)となりました。

(ハワイ事業)

ハワイ事業では、来島者数が前期を下回っているものの、マウナケアビーチホテル、ハプナビーチプリンスホテルで実施した客室リニューアルの効果を発揮すべく、引き続きレベニューマネジメントに取り組み、RevPARが前年同期比で上昇いたしました。

ハワイ事業の営業収益は、前年同期に不動産売却があったことなどにより、米ドル建てでは前年同期比減少となったものの、円安の影響により円建てでは36億59百万円と前年同期に比べ4億51百万円の増加(同14.1%増)となりました。営業損失は、82百万円となり(前年同期は、営業利益0百万円)、償却前営業利益は、3億33百万円と前年同期に比べ16百万円の減少(同4.6%減)となりました。

(その他)

伊豆箱根事業では伊豆・箱根エリアを主な営業エリアとして、近江事業では滋賀県琵琶湖エリアを主な営業エリアとして、それぞれの地域に根ざした事業を展開してまいりました。伊豆箱根事業においては、地域に必要とされる企業を目指し、ショートステイ・デイサービス複合型施設「エミーズ東間門」を平成26年4月にオープンいたしました。近江事業においては、保有不動産の有効活用をはかるべく、平成26年7月に近江八幡駅前テナントビルをオープンいたしました。

西武ライオンズでは、埼玉県及び西武鉄道沿線を対象とした市民感謝デーを実施するなど積極的な営業施策を展開したことなどにより、多くのお客さまにご来場いただきました。また、西武ドームエリアの活性化の一環として、野球開催日以外にコンサートや各種イベントを誘致するなど営業強化に努めてまいりました。

しかしながら、営業収益は、105億30百万円と前年同期に比べ2億91百万円の減少(同2.7%減)となり、営業利益は、8億48百万円と前年同期に比べ1億97百万円の減少(同18.9%減)となり、償却前営業利益は、14億24百万円と前年同期に比べ2億円の減少(同12.3%減)となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、前回公表時(平成26年5月13日)と変更ありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から主として給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を見直し、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更にもなう影響額を利益剰余金に加減しております。

なお、この変更による当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債及び利益剰余金、また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。



3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	24,390	22,466
受取手形及び売掛金	47,704	39,356
分譲土地建物	10,142	9,795
商品及び製品	1,228	1,360
未成工事支出金	2,892	3,527
原材料及び貯蔵品	2,458	2,640
繰延税金資産	4,275	4,488
その他	10,589	10,400
貸倒引当金	△168	△169
流動資産合計	103,512	93,866
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	398,303	398,723
機械装置及び運搬具(純額)	46,678	45,351
土地	746,669	746,364
リース資産(純額)	1,736	1,675
建設仮勘定	38,038	37,841
その他(純額)	10,010	10,325
有形固定資産合計	1,241,435	1,240,282
無形固定資産		
リース資産	198	160
その他	7,437	7,204
無形固定資産合計	7,636	7,364
投資その他の資産		
投資有価証券	52,657	55,927
長期貸付金	342	342
繰延税金資産	8,207	7,426
その他	10,464	10,367
貸倒引当金	△3,805	△3,809
投資その他の資産合計	67,865	70,253
固定資産合計	1,316,937	1,317,900
資産合計	1,420,449	1,411,767

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,481	21,472
短期借入金	187,686	185,372
リース債務	542	535
未払法人税等	7,153	3,935
前受金	23,650	27,324
賞与引当金	5,061	9,960
その他の引当金	3,361	3,485
資産除去債務	115	115
その他	57,356	48,248
流動負債合計	310,409	300,448
固定負債		
長期借入金	600,102	596,777
鉄道・運輸機構長期未払金	43,107	43,070
リース債務	1,322	1,265
繰延税金負債	125,618	125,744
再評価に係る繰延税金負債	14,618	14,618
役員退職慰労引当金	1,386	1,312
訴訟損失引当金	7,403	7,464
その他の引当金	181	440
退職給付に係る負債	28,178	28,403
資産除去債務	1,530	1,533
その他	18,901	19,254
固定負債合計	842,350	839,884
負債合計	1,152,760	1,140,333
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	129,172	129,172
利益剰余金	52,448	57,782
自己株式	△67	△2,709
株主資本合計	231,552	234,244
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,564	16,694
土地再評価差額金	17,660	17,660
為替換算調整勘定	3,338	2,140
退職給付に係る調整累計額	△1,120	△991
その他の包括利益累計額合計	34,442	35,503
少数株主持分	1,693	1,685
純資産合計	267,689	271,433
負債純資産合計	1,420,449	1,411,767

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業収益	110,448	115,855
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	90,962	95,928
販売費及び一般管理費	8,063	7,364
営業費合計	99,026	103,292
営業利益	11,422	12,562
営業外収益		
受取利息	2	4
受取配当金	273	289
バス路線運行維持費補助金	124	112
持分法による投資利益	16	6
貸倒引当金戻入額	370	—
その他	435	296
営業外収益合計	1,223	709
営業外費用		
支払利息	2,813	2,572
その他	154	77
営業外費用合計	2,968	2,650
経常利益	9,677	10,622
特別利益		
固定資産売却益	94	257
工事負担金等受入額	10	0
補助金収入	77	50
特別利益合計	181	307
特別損失		
減損損失	34	—
固定資産売却損	39	1
固定資産除却損	318	206
工事負担金等圧縮額	10	0
固定資産圧縮損	67	40
再開発費用引当金繰入額	—	460
その他	87	100
特別損失合計	557	810
税金等調整前四半期純利益	9,301	10,120
法人税、住民税及び事業税	4,249	3,895
法人税等調整額	△383	△269
法人税等合計	3,865	3,626
少数株主損益調整前四半期純利益	5,436	6,493
少数株主利益	58	20
四半期純利益	5,377	6,473

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,436	6,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	915	2,129
為替換算調整勘定	3,408	△1,197
退職給付に係る調整額	—	148
その他の包括利益合計	4,323	1,080
四半期包括利益	9,759	7,574
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,700	7,533
少数株主に係る四半期包括利益	58	40

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	都市交通 ・沿線事業	ホテル・ レジャー 事業	不動産事業	建設事業	ハワイ事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益	38,964	39,601	11,338	14,681	3,208	10,821	118,615	△8,165	110,448
セグメント利益 又は損失(△)	6,608	158	3,641	△213	0	1,046	11,239	183	11,422

(注)1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業及び西武ライオンズを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額183百万円については、主に連結会社間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	都市交通 ・沿線事業	ホテル・ レジャー 事業	不動産事業	建設事業	ハワイ事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益	38,248	40,938	11,725	23,350	3,659	10,530	128,452	△12,597	115,855
セグメント利益 又は損失(△)	6,636	939	3,775	630	△82	848	12,748	△185	12,562

(注)1 「その他」の区分には、伊豆箱根事業、近江事業及び西武ライオンズを含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△185百万円については、主に連結会社間取引消去等あります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

## 4. 補足情報

## (1) 鉄道事業運輸成績

グループ中核会社である連結子会社の西武鉄道株式会社における鉄道事業運輸成績は次のとおりであります。

## ① 鉄道事業輸送人員

(単位：千人)

	前第1四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	比較増減	増減率 (%)
定期	100,400	100,922	521	0.5
通勤	74,489	75,678	1,189	1.6
通学	25,911	25,243	△667	△2.6
定期外	60,547	59,014	△1,533	△2.5
計	160,948	159,936	△1,011	△0.6

(注) 千人未満を切り捨てて表示しております。増減率(%)は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ② 鉄道事業旅客運輸収入

(単位：百万円)

	前第1四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	比較増減	増減率 (%)
定期	10,849	10,844	△4	△0.0
通勤	9,778	9,810	32	0.3
通学	1,070	1,033	△37	△3.5
定期外	13,307	13,018	△289	△2.2
(うち特急料金)	785	798	13	1.7
計	24,156	23,862	△294	△1.2

(注) 百万円未満を切り捨てて表示しております。増減率(%)は小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。